

15日から徳島市内

全日本ソフトテニス

ソフトテニスの第65回天皇・皇后杯全日本選手権が15日から3日間、大神子コートで開かれる。徳島県開催は1954年以来2度目。個人戦(ダブルス)が行われ、中学生から一般までの各種全国大会上位入賞者や各県予選を勝ち抜いた男子180組、女子166組がエントリー。本県からは男子13人、女子14人が出場する。

(阿部研一)

県勢は男子が新田貴徳(抽栄会)山田拓未(大神子病院)黒羽祥平(早大)入田中一(三重高出)がベスト8に挑む。それが県外の有力選手とペアを組んでの出場。

後衛の新田は2004年3位。コースをついたサーブिसや配球に優れた球に威力がある。08年3位で前衛の山田は元日本代表で、勝負強さと正確なプレーが持ち味。黒羽はスピードのある前衛で、昨年の全日本学生選手権(インカレ)男子個人ダブルスを制した。女子は中川真弓・近藤友里組、平尾裕美子・滝下綾乃組の阿波銀行ペア

に8強入りの力がある。近藤は過去に8強が1度、ベスト16が3度あり04年は日本ランキング5位に達するなど経験豊富。強力なサーブिसとロビングが武器の中川と粘り強く戦う。同大会ベスト16が1度の平尾は強烈なスマッシュが得意な滝下とサーブレシーブから攻める。

このほか男子は千葉園体に出場した木村勇介(抽栄会)・石川宏樹(赤明ク)組、元インカレ王者の渡辺将司・藤村義之組(抽栄会)が上位進出を狙う。女子は2人も後衛の平行陣、大久保有絵・大崎幸歩(協町

県勢27人出場 上位目指す



黒羽祥平



山田拓未



新田貴徳



滝下綾乃



平尾裕美子



近藤友里



中川真弓

高)組が全国高校総体5位の力を発揮したい。男女ともに優勝争いは11月の広州アジア大会代表が中心。男子は昨年制し、最多優勝記録を8度目に伸ばした中堀成生・高川経生組(NTT西日本広島)に注目。ともに38歳だが卓越した技術を持ち合わせている。篠原秀典・小林幸司組(東京・日体校友会、東京・ミスノ)鹿島鉄平・中本圭哉組(早大)らが追う。

女子はアジア大会全日本予選会を制した杉本瞳・森原可奈組(兵庫・東芝姫路)佐々木舞・大庭彩加組(NTT西日本広島)上原絵里・平田清乃組(東京・ナガセケンコ)に注目だ。